

第 12 回 村立幼稚園職員等ワーキング・チーム会議 会議録

日 時	令和 4 年 1 月 24 日 (月) 午後 3 時～午後 4 時 10 分
場 所	東海村役場 行政棟 205 会議室
出席者	・村立幼稚園職員 (7 名) ・村立保育所及びこども園職員 (4 名) ・指導室 (1 名) ・子育て支援課 (3 名)
次 第	1. 開会 2. 子育て支援課長挨拶 3. 議事 ・作業部会の進捗状況について ・教育・保育施設の利用見込み調査について ・一日幼稚園での説明事項について 4. 閉会

1. 開会

2. 子育て支援課長挨拶

・今回は各部会の進捗状況と今後の進め方の予定について共有する。

3. 議事

(1) 作業部会の進捗状況について

・別紙「作業部会の協議状況 (R3.12 月末時点)」をもとに、各部会から進捗について説明。

教育課程部会

- ・初回には、幼児教育に関する有識者 (茨城女子短期大学 / 助川公継教授) より教育課程の考え方や作り方について講義いただいた。その中で、幼児教育の目標やねらいは、小学校のような「～できるようにする」といった到達目標でなく、「～を味わう、～を感じる」などの方向付けが重視された教育目標であるため、生活や経験を大切にしながら経験カリキュラムでなくてはならないというお話があった。
- ・「何歳までにこれをやる」といった一斉カリキュラムにならないよう、部会メンバー間でも共通理解をした上で協議を進めている。
- ・各学年のねらいや方向性をイメージがしやすいように、各年齢のキーワード (案) を作成した。
- ・キーワード (案) は、各年齢の特徴を入れることで若手の職員が見ても目指す姿をイメージ・理解しやすい言葉とした。今後、各園 (所) からも、表現や年齢による姿について意見をもらいたい。

- ・現在の教育課程について各園（所）から多くの意見が集まったので、それらを新しい教育課程に反映できるよう協議していく。
- ・幼児の実態を把握し、新しい村松幼稚園で掲げる教育目標に向けてどのような狙いを設定していけば村の子どもたちが目標に向かって育っていけるか協議していくことが必要。
- ・今後の対応としては、来年度の夏くらいまでにおおよその教育課程を土台として作れるようにしたい。
- ・できた教育課程がどのような経緯でできたのかを理解しておくことが重要であるため、書面だけでなく発表する形により職員間で共有・確認しながら改善していき、より良い教育課程を作り上げていければと考えている。

こ保幼小連携部会

- ・各学区の小学校とこれからどのように連携し、どのような方法で交流ができるのか、課題や疑問点を収集し話し合った。
- ・就学先の小学校がどんなところか知ることは子どもたちにとっても大事なところなので、現地での交流も必要になるのではないか、交通手段についてもどのような方法で交流が持てるか、小学校の電子黒板のようなものを幼稚園にも取り入れることができないか等、意見を出しながら話し合いをしている。
- ・再編に向けてどのような交流を大事にしていきたいのか、今後やってみたい活動など、各幼稚園にアンケートを行ったので、その結果をもとに協議していく予定。
- ・統合後を見据え、各園で事前に実施できるようところは統合前から実施し、統合後のこ保幼小連携でもスムーズにいような活動にすることも大事なのではと考えている。
- ・こ保幼の先生だけでなく、小学校の先生とも交流の内容や方法などのすり合わせも必要になるので、来年度以降は小学校の先生との交流の場も設けて意見を出し合えるように部会を進めていきたい。
- ・アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの見直しも行う予定。

地域との交流部会

- ・各園の地域交流の状況や内容などを一度洗い出し、統合後の村松幼稚園でどのような交流ができるかを検討中。イベント的な交流としては、村松幼稚園の地域のまつりとして行燈祭りを検討。出初式などの全村的な行事への参加は大変だという意見もあったが、保育の中に防災や消防などを取り入れればやることにも意味があって良いのではないかという意見や、村立幼稚園が1園になることから村の幼稚園として参加するという考えもあって良いのではないかと話し合っている。
- ・園内での交流としては、地域に開かれた幼稚園として夏祭りや発表会を地域の方にも見てもらう機会を作ることで地域との関わりを増やし、地域の方にも理解してもらうことに繋がり、ちょっとした協力をお願いできるようになるなど、スムーズな関わりも持てるようになるのではないかという意見もあった。
- ・今後、交流の内容や転園により幼稚園がなくなってしまう地域との関わりについてもどうしていくか話し合っていく。

転園に伴う影響の緩和策

- ・転園に伴う影響を受けるものとして、子ども、保護者、職員の3つが考えられる。保護者の不安把握として、一日幼稚園の際にアンケートを取ってはどうかという意見もあったが、まずは再編についてよく知らない保護者もいることから、対応方針の内容をベースに一日幼稚園の際に説明を行うこととした。
- ・職員の村松幼稚園での保育体験については、現在の村松幼稚園の保育の影響も考慮し行う。まずは村松幼稚園での勤務経験等について職員向けにアンケートを実施予定。
- ・園児交流について園庭開放を活用する案も出たが、保険に関する事など細かな問題が残る。
- ・園児が新しい環境に慣れること、保護者の送迎時の不安を解消すること、園児同士の交流をどのように実施するか等、緩和策の目的を明確にしながら受け入れ側の村松幼稚園の状況も確認し、交流の回数や時期、場所、バスの手配等など、今後協議して具体的に決めていく予定。

昼食の提供部会

- ・幼稚園への給食提供の実績がある業者の弁当を試食した。
- ・試食の評価をもとに契約する際の仕様書等、条件を整理していく。
- ・次年度から、保健所とも打ち合わせをしながら配膳室のあり方や条件等を確認し、業者選定の方法や仕様書の内容も詰められるように協議を進めていく。
- ・令和4年度後半から令和5年度にかけて、昼食を提供するにあたっての職員体制や配膳の流れ、保護者の費用負担等、実際の運用体制について具体的な内容を協議していく予定。

送迎対応・駐車場

- ・今後、駐車場周辺の安全や運用ルール等を検討していく予定。また、自治会への協力依頼や送迎車両の利用対象となる家庭の把握などの必要がある。
- ・送迎車両を手配する業者との契約に伴う仕様書の検討や運用方法等についても検討していく。

園舎・園庭整備部会

- ・次年度、実際にどこまで園舎・園庭の整備ができるのかを検討していく段階になる。
- ・園舎については、配膳室や昇降機の整備、保健室スペースの整備などを行う考えになっている。
- ・園庭は総合遊具の撤去、園庭と職員駐車場の間へのフェンス設置、総合遊具部分から園庭の間の段差を一部残して撤去する等、大きな整備部分については考えがまとまった。
- ・その他に、トイレの増設や多目的トイレの設置、職員用ロッカーの整備、テラス屋根の整備等についての意見もあるが予算との兼ね合いもあわせて検討。
- ・園庭は、業者に発注する部分と自分たちでできる部分と分けて考えているが、予算がまだはっきりしていないので難しい。他園の事例では、建築士をアドバイザーとして先生たちが自分たちで園庭を整備しているというものもあるので、見せ方も含めて一度目を通してもらえると園庭の考え方もイメージしてもらえるのではないかと思う。

教育時間、教育・保育時間の拡充部会

- ・まずは預かり保育の実態の把握が必要ということで、各園（所）に預かり保育や教育・保育時間を拡充した場合の課題やアイデア等についてアンケートを実施した。
- ・次回以降の部会でアンケート集計結果をもとに課題を整理し、具体的な内容について協議していく。
- ・教育時間の事前の統一についても、統合前に揃えておいたほうが良いのではという意見もある。申請手続きや料金、保育環境の見直し等、必要なタイミングで予算要求できるよう検討していく。

子育て支援・未就園児保育部会

- ・各園の未就園児への取り組み状況を確認し、これからの取り組みのねらいを「①保護者同士のつながりをはかり、子育ての不安の解消に努める」、「②生活を進める力や人と関わる力の素地をつくる」の2つにまとめた。
- ・未就園児は0～5歳児と言えるが、幼稚園は3歳から入園するというので、2歳児を対象の中心として実施しようと考えている。
- ・2つのねらいにあわせ、2歳児を対象とした事業（案）のたたき台を作成しているので、それをもとに次回話し合う予定。
- ・協議の中で、事業に子育て支援コーディネーターにも入ってもらえると支援に繋ぎやすくなって良いのではないかという意見もあったが、担当の先生が丁寧に接する（必要に応じて繋ぐ等も含む）ことでも対応できるのではないかという意見も出ている。
- ・事業の内容が固まったら、専門の先生からアドバイスをもらえる機会があると、子育て支援・未就園児保育事業をスムーズに計画・実施できるのではないかという意見もあった。

ICT部会

- ・石神幼稚園とけやきの杜保育所でタブレットの導入をしており、その実証結果を見ながら検討していく予定。特に、職員の仕事軽減の効果や費用対効果等を中心に精査しまとめていきたい。
- ・今年度も、保育系のアプリを手掛ける会社が増えている。機能なども多様になってきており、これからICTを取り入れる園も増えるのではないかと思うので、部会の中で話し合うだけでなく、ICTを取り入れている園へ視察に行き情報収集ができればと考えている。

学級編成・クラス名部会

- ・学級編成については、事前交流を踏まえた上でクラス編成や人数を決めるので、令和5年7月頃から1月頃に3回程度話し合う必要があると考えた。内容によって部会の回数を調整。
- ・園児募集の前には、教育委員会に諮る必要があると考えている
- ・園児募集や村松幼稚園の一日幼稚園、健康診断など、子どもや保護者と関われる場所やタイミングで舟石川幼稚園や須和間幼稚園から手伝いに行っても良いのではないかという意見も出た。

- ・クラス名については令和 4 年度中に決めて、子どもたちが事前にクラス名が分かることで進級時や転園時に何組になるのか期待を持ってもらえれば良いのではという意見が出た。
- ・新たなクラス名にするのか、そのままにするのかについても検討し、事前に職員からアイデアをもらったり、子どもたちからも案を出してもらったりするのも良いのではという意見もあったので、令和 4 年度中には決められるようにしたい。

その他

PTA	村立幼稚園が 1 園となることに向けて、今後村 PTA をどのようにしていくのか来年度から協議し、それを踏まえて統合後の PTA の在り方についても令和 5 年度に話し合っていく。
入園時購入品, 制服, 教材費	大きな方向性は園長会で協議し、費用や各園での購入品の状況の洗い出しなどの詳細については主任会で協議する。令和 5 年度までに結論を出すことを目途に令和 4 年度から協議を始めていく。
苦情処理	主任会で令和 5 年度から体制の検討をする。
健診	園児募集については、情報発信も含まれてくる。今年度はのびのび子育て帳の村立幼稚園のページをリニューアルしたが、現場のアイデアや協力をもらいながら引き続き在園児保護者だけでなく、園児募集にも繋がるような情報発信にも取り組んでいければと思う。
園児募集	
職員体制	再編直前の年度の村松幼稚園職員や子育て支援課などで、職員体制も含めての話し合いになる。
職務分担	
備品調達	備品購入の予算計上までに、各園にある備品のうち、どれを村松幼稚園へ持っていくのか等の整理・確認が必要になってくる。
研究発表, 職員研修 (園内)	令和 4 年度以降の対応についても含めて、「東海村立幼稚園・こども園教育研究会」で協議。
学校評議員	園長会と教育委員会で令和 4 年度には運営体制について、令和 5 年度からは具体的な人選 (地区, 人数等を含む) について協議。

(2) 教育・保育施設の利用見込調査について

- ・保健センターに協力を依頼し、母子手帳交付時と 1 歳 6 か月健診時に、教育・保育施設の利用意向調査を実施。

(3) 一日幼稚園での説明事項について

- ・来年度の舟石川幼稚園・須和間幼稚園の新 3 歳児は、年長進級時のタイミングで村松幼稚園へ転園する対象となる。令和 4 年度の幼稚園利用申込みの際にも、再編について知らない保護者もいたことから、2 月の一日幼稚園の際には現時点での協議状況について説明しておく必要がある。
- ・入園予定児へのアンケートは、集計結果を子育て支援課まで報告願いたい。

- ・4月入園以降にも、再編に向けた保護者ニーズの把握が必要だという意見もあるので、協議を進めていくうえで聞きたいことがあれば、調整して第2弾の保護者アンケートを実施したい。

<今後の予定について>

- ・次回のワーキング・チーム会議は3～4月頃を予定に、部会の進捗等の状況を見ながら日程を調整する。

4. 閉会